

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 湯川 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

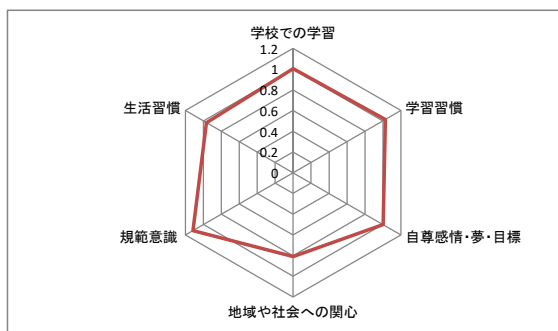
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・ 全国平均を上回っていた。領域では、「話すこと・聞くこと」の正答率が高かったが、「書くこと」に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・ 登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・ 目的に応じて必要な情報を捉える問題は、正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・ 全体的に全国平均を下回っており、「話すこと・聞くこと」に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・ 計画的に話し合うために、司会の役割について適切なものを選択する問題は、正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・ 全国平均を下回っており、「数と計算」「数量関係」問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・ 円周率を求める問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・ 直径の長さや円周の長さの関係について理解しているかを問う問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・ 全国平均を下回っており、図形の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・ 示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考慮し、分配法則の式に表現する問題は、正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	・ 合同正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見つける問題は、正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均と同程度であるが、「観察・実験の技能」に課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	・ 堆積作用について、科学的な言葉や概念の理解を問う問題は、正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	・ 土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題は、正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校のきまりを守っている児童の割合が高く、全国平均よりも上回っている。「湯川小4つのこだわり」を全教職員で取り組んでいる成果であると考える。</li> <li>・ 家で学校の宿題ををしている児童の割合が、100%であった。</li> <li>・ 地域や社会への関心や地域の行事に参加している児童の割合が低かった。実際に地域やPTAの行事に参加している児童の割合は高く、児童の認識を高めていく必要がある。</li> <li>・ 自分にはよいところがあると思っている児童の割合が、全国平均に比べて低い。自尊感情を高める取り組みが必要である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料から必要な情報を取り出し、まとめたり自分の考えを説明したりする力を付けるために <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書の質を高める。(借りる本の内容を定期的に物語等と指定し、長文を読む習慣を付ける。</li> <li>・ 資料や問題のキーワードに印を付けることを定着させる。</li> </ul> </li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝食を摂り同じ時間に就寝する児童の割合を高め、規則正しい生活習慣を付けるために <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健だより、給食だより等で、専門的な立場から成長期における朝食、就寝時間等規則正しい生活の大切さの理解を図るとともに、学校においても、学校通信、学級指導において生活リズムの改善にむけて機会を見つけて指導を行う。</li> </ul> </li> </ul>
--